



# 複式学級における児童の主体的・対話的な学びを引き出す授業の実践

少人数指導のよさを生かした学びの場面づくり

今金町立種川小学校 学級数5(1) (校長 本庄 伯幸)

## I 実践テーマの趣旨

本校では、これまで小規模複式校のよさである「少人数ならではの個に応じたきめ細かな指導」の充実に取り組んできた。その中で、「自分の考えを表現し、他者の考え方に触れる」機会を設定する必要があると考えた。

そのため、今年度は、研究主題を「自分の考えをもち、主体的・対話的に学ぶ学習指導の工夫～とにも学び、高めあえる算数科の授業づくりを通して～」と設定し、授業改善に努めてきた。

また、今年度、紙面発表となったが、第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会の会場校であったこともあり、本大会の開催に向けて取組を進めてきた。

## II 実践の概要

### 1 見通しをもって主体的に学ぶ取組

#### (1) 自力解決につなげる「手がかりになる言葉」の提示

児童が課題の解決に向けて主体的に取り組むことができるよう、ヒントカードの他に「手がかりになる言葉」を提示している。児童が「手がかりになる言葉」を見ることによって、課題の解決に向けてどの既習事項をどのように活用すればよいか考え、自力解決につなげることができるようにしている。



「手がかりになる言葉」

#### (2) リーダーを中心としたガイド学習の定着

間接指導時において、児童が自分たちで学習を進めることができるように、児童のリーダーは教員が作成したガイドに基づいて指示を出し、それに従って他の児童も学習を進めるガイド学習を取り入れている。リーダーは交代で全ての児童が経験し、見通しをもって学習するよさを実感することができるようにしている。



リーダーを中心としたガイド学習の様子

### 2 自分の考えを整理し、伝え合う対話的活動の取組

#### (1) 問題の題意を捉えるためのICTの活用

問題の題意について図や表などを用いて視覚的に理解するために、タブレットや電子黒板を活用している。児童が視覚的に理解した題意について、教員は児童の交流を促し、言葉で題意を説明させることによって、自分の理解を整理することができるようにしている。



題意を捉えるためのICTの活用の様子

#### (2) 相手意識をもった自分の考えの説明

相手意識をもって自分の考えを説明できるようにするために、ノートやホワイトボードに課題の解決についてまとめさせ、それを基に説明させる活動を取り入れている。説明する児童は、相手に自分の考えを理解してもらえよう、考えた理由を明らかにしながら説明を行う。また、説明を聞く児童は、自分の考えと同じ部分と異なる部分について考えながら聞く。少人数だからこそ説明し合う場面を設定し、相手意識の醸成につなげている。



間接指導時に、児童同士で説明し合っている様子

## III 実践の成果(○)と課題(●)

- 児童が学習に向けて主体的に取り組むことによって、学習に向かう意欲を高めるとともに、何をどのように学ぶのかについて意識できるようになった。
- 児童が対話的な学びの場を経験することによって、他の児童の考えを踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりするとともに、自分の考えに自信をもつことができるようになった。
- 児童の学習に取り組む態度が高まるように、ガイド学習によって授業の形態が毎回同じにならない工夫を考える必要がある。
- 児童が自分の考えを一層深められるよう、異なる考えについて注目させたり、教員が異なる考えを提示したりする必要がある。